

大分県国東市国見町伊美地区における古家活用の変遷 —古家・空地活用による地域再興のプロセスに関する研究 その1—

正会員 ○原田 涼平* 同 太田 裕喜*
同 姫野 由香** 同 金 大一***

空き家 行政 ヒアリング
空き地 NPO 移住

1. 研究の背景と目的

我が国は現在、少子高齢化などの原因により、人口減少の一途を辿っている^{注1)}。また、首都圏への若者の流出などにより、人口減少による諸問題は、地方ほど顕在化してきている。人口が減少するとともに、空き家率も増加しており、そのような状況から、「空き家バンク登録制度」のような、急増する空き家の活用や、減少する地方の人口維持のための移住政策が、全国的に取り組みられるようになってきた。

国東市国見町伊美地区では、個人や民間団体による空き家や古い建物(以下古家)^{注2)}、空地の活用が進められており、この19年で16件の古家と4件の空地の活用が進められてきた。また、それらの古家を活用した、移住者と地域住民の交流会なども行われており、古家を活用した多様な取り組み例が観察できると考えた。そこで本研究では同地区を対象とし、個人や民間団体による古家の活用現状や連携内容から、他地域での古家活用による地域再興の一助となる知見を得ることを目的に研究を行う。

2. 研究の方法

本稿その1では、古家を活用している民間団体や個人へヒアリング調査を実施し、古家活用の時期や、改修内容を把握し、古家活用の経緯を明らかにした。次に、伊美地区における古家活用の傾向から変容期間を区分し、古家活用の変遷を考察する。

3. 対象地域

大分県国東市は、概ね国東半島の東半分を占めている。半島の沿岸部には、大分空港が立地するなど、他地域との交通の便は良い。また、国東半島の北端に位置する、国見町は「第二次国東市総合計画」¹⁾より、アート・工芸の中心地と位置づけられている。また、旧伊美商店街は現在、通称ギャラリー通りと呼ばれる程、複数の工房やギャラリーが立地し、この通りを中心とした芸術イベントも実施されている。

4. ヒアリング調査による古家活用の実態把握

伊美地区の古家活用の現状を把握するため、ギャラリー一通り周辺で古家を活用した芸術活動や創作活動に携わる9名と「NPO法人くにもみ群」^{注3)}代表者に対し、ヒアリング調査を実施した。調査結果を古家活用に関する年表として表1にまとめる。古家活用の変容期間を読み取れる傾向から区分し、古家活用の変遷を以下に考察する。

◆古家活用開拓期(平成7年～平成18年)

同地区で最初の古家活用がみられた平成7年から、市町村合併により国東市が誕生した平成18年までは、伊美地区での古家活用事例は4件にとどまる。しかし、これ以降、同地区における古家活用がすすむことから、「古家活用開拓期」とする。

◆古家活用進展期(平成19年～平成25年)

平成19年から平成25年にかけては、7件の古家活用事例が確認できた。また、国東市による空き家バンク登録制度が施行されており、行政による空き家の活用が進められている。この時期に古家の活用事例が急激に増え、イベントと古家を関連づけた地域づくりが進められたことから、「古家活用進展期」とする。先に移住していた移住者や、地元住人による他の地権者への働き掛けが影響していることもわかった。このことから、古家活用の主軸となる民間団体や、地元住民の役割は大きいと考えられる。

◆古家活用展開期(平成26年～平成28年)

平成26年から平成28年にかけては、5件の古家活用事例が確認できた。この内、空き家バンクを活用した古家は4件あり、行政による基盤整備も効果的であることがわかる。この期間の移住者はともに創作活動を生業としており、古家活用16件中14件がギャラリーや工房であることから、アート・工芸の地という地域の印象が形成されている。よって、官民の連携がみられたことや、地域の印象が確立されつつあるため「古家活用展開期」とする。

5. 総括

伊美地区の古家を活用した移住事例から、民間団体や地元住人の働きかけは効果的であり、古家活用の主軸となる存在が必要であると考えられる。官民双方による働きかけも古家活用を促進するうえで重要であると考えられる。さらに、古家活用の変容期間の区分から、イベントなどの取り組みを通して地域の印象を創ることも、移住を促進し古家活用に有益であると考えられる。

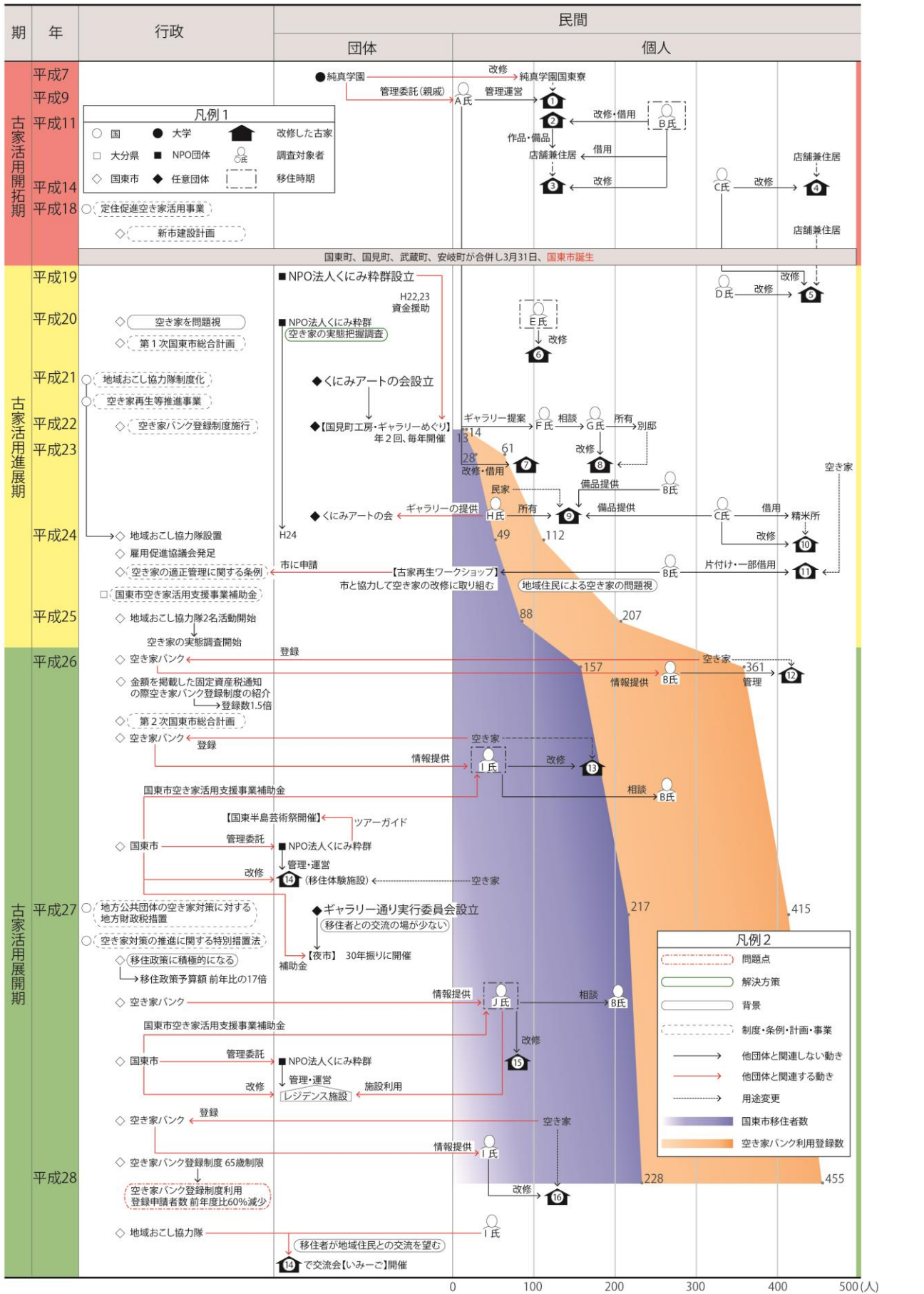
【補注】

- 注1) 国勢調査の人口を比較した結果、平成23年から人口減少している。
注2) 本研究では、多様な活用手法を明らかにするために、空き家に限らず、空き店舗の活用事例も対象とし、空き家等の居住世帯のない住宅と空き店舗を総称して古家とする。
注3) 「NPO法人くにもみ群」は、国見町全域で活動を展開しており、行政や企業と連携し、イベント協力など、地域活性化に携わってきた。

【参考文献】

- 1) 「第二次国東市総合計画」<https://www.city.kunisaki.oita.jp/soshiki/kikaku/soukei-design2-final-manuscript.html>

表1 古家活用に関する年表



*大分大学大学院工学研究科博士前期課程
 **大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士 (工学)
 ***大分大学大学院工学研究科博士後期課程

*Graduate Student, Oita University
 **Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita University, Dr. Eng
 ***Doctoral Course, Oita University